

新興国市場の見通し ～アジア株式を中心に、依然として魅力的～

楽読(ラクヨミ)

新興国は、全体として、市場のバリュエーションに割高感がなく、経済成長率が依然として概ね上向きとなっていることなどから、魅力的な投資対象と考えられます。ただし、主要先進国・地域で金融緩和の縮小が見込まれており、その影響が予想されることや、今後、新興国の中で経済成長率に格差が生じる可能性が高まるとみられることなどに配慮が必要です。

米・欧を中心とした主要先進国・地域で予想されている金融緩和の縮小については、当初の影響は大きくなくとも、来年後半以降、徐々に世界の金融環境の引き締め要因になるとみられます。2013年に、米FRB(連邦準備制度理事会)議長が量的金融緩和縮小の可能性に言及した際には、流動性の引き締めへの警戒感から世界的な金融市場の動揺、いわゆる「バーナンキ・ショック」が起きました。そして、大幅な経常赤字を抱え、「フジャイル・ファイブ(脆弱な5カ国)」と呼ばれた、ブラジル、インド、インドネシア、トルコ、南アフリカなどの通貨が大きく売られることとなりました。ただし、その後、インドやインドネシアは経常収支の改善に向けて改革に取り組んだほか、ブラジルは、足元で政治リスクが再度、高まっているものの、経常赤字を解消しただけでなく、財政赤字の縮小に向けて改革を進めつつあります。一方、トルコと南アフリカでは改革がほとんど行なわれておらず、世界的に金融環境が引き締まる場合には、再度、大きな影響を被る可能性があります。

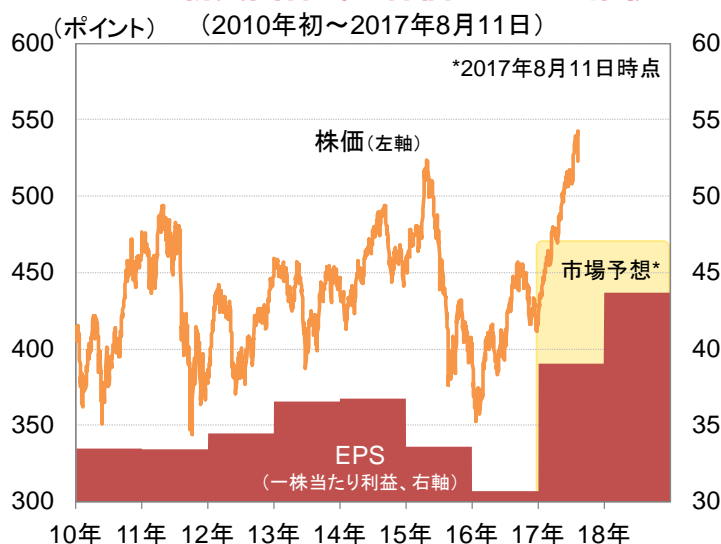
また、主要先進国・地域での金融緩和の縮小の影響などもあり、今後、各国・地域の経済成長率に格差が生じるとみられ、成長見通しの重要度が高まると考えられます。この点で、主要新興国資産の中でも特に注目されるのは、高成長が見込まれているアジアの株式です。アジアでは、韓国や台湾を中心に、テクノロジー分野での構造的な需要増加の恩恵が広がっているほか、中国で企業利益の伸びが消費需要の拡大につながる兆しが見られていること、さらに、改革の恩恵などからインドで中間所得層が拡大していることなどを背景に、企業収益の堅調な伸びが見込まれています。加えて、アジアは、総じて貯蓄率が相対的に高く、世界的な流動性の引き締めに伴う影響の緩衝役になるとみられることも、強みと考えられます。

先進国・新興国の株価推移



先進国株式:MSCIワールド指数、新興国株式:MSCIエマージング・マーケット指数、アジア新興国株式:MSCI新興アジア指数(いずれも米ドル・ベース)
信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

アジア新興国株式の株価とEPSの推移



※上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。